

世羅町立せらひがし小学校「プロジェクト型学習」単元計画

せらを元気にしよう ～え顔いっぱい大作せん～

| | | |
|--------|------------------|---------------|
| 学年・教科 | 第3学年・総合的な学習の時間 | 指導者 永井祐紀・一山祐太 |
| 単元名 | せらひがしのたからを見つけよう | |
| 学習テーマ | 世羅を元気にしよう | |
| 関連SDGs | 11 住み続けられるまちづくりを | |

単元情報

(1) 単元計画の概要

本校では、学校教育の目標を「未来を拓きたくましく生きる子どもの育成」とし、「挑戦と創造」を校訓に様々な教育活動に取り組んでいる。

第2学年の生活科「町たんけん」では、学校の周辺にあるアスパラ農園を回り、発見したことをお家の人に伝える活動を行った。

第3学年においては「せらを元気にしよう」をテーマとし、校区の中の4地域の人々やもの（文化財・自然・生き物）について知り、より多くの人にせらひがし地区のよさを発信していく単元を設定した。せらひがし校区は、自然が豊かで、自然を生かした世羅高原農場や、広島県で生産高第2位を占めているアスパラ農園などの施設がある。地域の中で暮らしていても知らないことが多い児童の実態があるため、見学や自分たちで調べる活動を通して、自然の美しさ、人々の工夫などから、子どもたち自身がせらひがしのことを好きになり、自慢を伝えようとする意欲を促す。子どもたちが見つけた宝を伝えたいという思いから、学習を計画し、進捗を確認することで、自発性を養い、自分たちの意見を伝え合い、根拠を基に説明することでコミュニケーション能力の育成や、郷土の素晴らしさを胸に抱く児童を育成していく。

(2) 育成したい21世紀型スキル（資質・能力）

【自発性】

- ・自ら課題を見出そうとする力。
- ・自ら学びの機会を広げ、チャレンジする力。

【コミュニケーション能力】

- ・伝える力。
- ・表現力。

(3) 単元の目標

地域のよりよいまちづくりに関わる人々や組織を調べる活動を通して、地域の人やもの（文化財・自然・生き物）のよさやそれらを守る人々の工夫を理解し、見つけたせらひがしのたからについてまとめ、自分たちがやりたいことができるようにする。

(4) 他の単元との関連

- ・社会科「市のようす」（4月）
- ・国語科「よく聞いてじこしょうかい」（4月）
- ・国語科「もっと知りたい、友だちのこと」（5月）
- ・道徳科「今年も会えたねすずらんに」（9月）

児童の実態

(1) 児童の実態

本学級の児童は、第2学年時の生活科の町探検の学習「キラキラハートピンクプロジェクト」において、学校の周辺にあるアスパラ農園に行き、発見したことをお家の人に伝える活動を行った。せらひがし地域のことに興味をもち、学習に取り組むことができた。

(2) 資質・能力に係る状況

「自発性」においては、自分たちで学習課題に対して「～を試してみたい。」「～ができるようになりたい。」等の思いを持つことができている。しかし「そのためには、どうしたらいいかな?」と尋ねると方法までを答えられる児童は少ない。そこで、自分で考えることができた児童の方法を共有し、自分なりの方法を持つことができるように知識を蓄積させていく。

「コミュニケーション能力」においては、課題に対する自分の考えを答えたり、相手に説明したりすることはほとんどの児童ができています。また、相手の考えを聞いて、分からなければ「どういうことですか?」等、質問することもできます。しかし、答え方が分からず固まってしまう児童も中にはいます。授業ではペアトークやグループトークを適宜設定し、自分の考えを相手に伝えることのできる力を付けさせていく。

単元指針

(1) プロジェクト型アプローチの視点

- ・「せらを元気にするためにはどうしたらよいだろう」を問い、様々な課題から自分たちが関わっていけそうな方法を模索させる。
- ・「もっと世羅のことを知るために、地域の人に話を聞きたい。」「もっと世羅のことを知るために、地域に行きたい。」等、児童が思いを膨らませることができるように、思いが同じグループの友達と相談する時間を確保する。
- ・児童が自分の思いを叶えるために、試行錯誤しながら学習を進めることができるように、図鑑・電話帳やパンフレット等を教室に置くなど、環境設定する。

(2) 評価規準

| 【知識・技能】 | 【思考・判断・表現】 | 【主体的に学習に取り組む態度】 |
|--|--|--|
| ①地域の人やもの（文化財・自然・生き物等）のよさを知るとともに、それらは地域の人々によって守られていることを理解している。 | ①地域のよりよい町づくりに関わる人々や組織を調べる活動について課題を設定し、解決方法や手順を考えている。 | ①課題解決に向けた自己の取組を振り返ることを通して、自分の意思で探究的な活動に取り組もうとしている。 |
| ②地域の人々やもの（文化財・自然・生き物等）のよさを調べるために現地を見学し、必要な情報を収集している。 | ②せらひがしのよさを捉えるために必要な情報について手段を選択して多様な方法で収集している。 | ②課題解決に向けた探究的な活動体験を通して、自分と違う友達の考えを生かしながら、協働して課題解決に取り組もうとしている。 |
| ③地域の人やものと自分たちの生活がつながっていることについて理解し、地域について探究的に学習してきたことの成果であることに気づいている。 | ③課題の解決に必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較・分類したりしながら解決に向けて考えている。 | ③地域のために自分でもできることに取り組むことを通して、自分と身近な環境との関わりを見直そうとしている。 |
| | ④せらひがしのたからについて、調査結果の根拠を基にグラフや地図、写真を使ってわかりやすくまとめ、表現をしている。 | |

| | | | | |
|-----------------|---|---|---------------------|------------------------------|
| | <ul style="list-style-type: none"> ○ 誰にプレゼントするか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域見学に行き，誰にプレゼントするか考える。 | <p>様な方法で収集している。</p> <p>【知②】 地域の人々やもの（文化財・自然・生き物等）のよさを調べるために現地を見学し，必要な情報を収集している。</p> | | |
| 整理分析 (3時間) | <ul style="list-style-type: none"> ○ 収集した情報を基に，必要なものを準備する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 土作り ・ 苗の用意など ○ プレゼントしたい人にアポイントメントをとる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちで電話をかけたり，メールや手紙を送ったりする。 | <p>【思③】 課題の解決に必要な情報を取捨選択したり，複数の情報を比較・分類したりしながら解決に向けて考えている。</p> | Jamboard 行動・発言 | Jamboard |
| まとめ・表現 (3時間) | <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分たちの調べた方法で花を植えてみる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 思いが同じ人で集まって，相談しながら花を植える。 ・ 活動後，振り返ることができるように写真や動画を残す。 | <p>【思④】 せらひがしのたからについて，調査結果の根拠を基にグラフや地図，写真を使ってわかりやすくまとめ，表現をしている。</p> | Jamboard グループトーク | Jamboard クロームブックのカメラ・動画機能 |
| 課題設定 (2時間) | <ul style="list-style-type: none"> ○ 新たな課題を見つける。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 失敗や成功を繰り返しながら，花を育てる。 ・ 失敗や成功体験から，新たな課題を見つける。 | <p>【主①】 課題解決に向けた自己の取組を振り返ることを通して，自分の意思で探究的な活動に取り組もうとしている。</p> | Jamboard グループトーク | Jamboard |
| 情報の収集 (5時間) | <ul style="list-style-type: none"> ○ どのような方法が考えられるか，意見を出し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 共通の思いをもった友達と，相談しながら話し合う。 ・ 相談して話し合いながら，いくつかの方法に絞り込み，全体で共有する。 ・ ゲストティーチャーの方に教えて頂く。 | <p>【思②】 せらひがしのよさを捉えるために必要な情報について手段を選択して多様な方法で収集したり，種類に応じて蓄積したりしている。</p> <p>【主②】 課題解決に向けた探究的な活動体験を通して，自分と違</p> | Jamboard グループトーク | Jamboard |

| | | | | |
|-----------------------|--|--|--------------------|----------|
| | | う友達の考えを生かしながら，協働して課題解決に取り組もうとしている。 | | |
| 整理・分析 (2時間) | <ul style="list-style-type: none"> ○ 実現可能で取り組みやすいと判断できるものを選ぶ。 ・ 実現可能で取り組みやすいと自分たちで判断した方法で花を植えてみる。 | <p>【思③】</p> <p>課題の解決に必要な情報を取捨選択したり，複数の情報を比較・分類したりしながら解決に向けて考えている。</p> <p>【主③】</p> <p>地域のために自分でもできることに取り組むことを通して，自分と身近な環境との関わりを見直そうとしている。</p> | Jamboard 行動・発言 | Jamboard |
| まとめ・ 振り返り (2時間) | <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の人に育てた花をプレゼントする。 ○ 地域の人たちを笑顔いっぱいにすることはできたか振り返ろう。 ・ 活動を振り返り，今回の活動でできるようになったこと，今後の活動を整理する。 | <p>【知③】</p> <p>地域の人やもの自分たちの生活がつながっていることについて理解し，地域について探究的に学習してきたことの成果であることに気づいている。</p> | Jamboard ループリック | Jamboard |

本時の目標

地域の人たちを笑顔いっぱいにするために、花を育てるために分からないことを出し合い、準備することができる。

準備物

Google Chrome, 電子黒板

本時の学習内容

| 学習段階 | 学習活動 (Q 主な発問・児童の反応) | 教師の動き (指導上の留意点) | 評価規準 |
|---|---|--|---|
| <p>1. これまでの学習を振り返る。 【話し合いのポイント】 ☆地域の人々が本当に笑顔になるかな？ ☆自分たちでできる活動かな？</p> <p>2. 本時の課題を確かめる。</p> | <p>Q 笑顔いっぱい大きくせんを成功させるために、自分たちに何が出来るか話し合ったことを紹介しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> •せらには花がたくさんあるから、みんなで花を育てたいという意見が出ました。 •育てた花を地域の人たちにプレゼントしたいという意見も出ました。 | <ul style="list-style-type: none"> •前時までの活動を振り返り、今日の活動の見通しをもたせゴールを確認させる。 •話し合う視点を確認させる。 | |
| <p>え顔いっぱい大作せんをせいこうさせるために、分からないことを出し合い、花を育てるじゅんびをしよう。</p> | | | |
| <p>3. 共通の思いをもった友達と、相談しながら話し合う。</p> | <p>Q それぞれのグループに分かれて、話し合いをしましょう。 (例)</p> <p>ヒマワリグループ</p> <ul style="list-style-type: none"> •ヒマワリの種のまき方が分からないね。 •ヒマワリって、いつ種をまいたらいいのかな。 <p>サルビアグループ</p> <ul style="list-style-type: none"> •サルビアの育て方が分からないね。 •サルビアって、学校の玄関で見たことがあるけど、誰がプレゼントしてくれたものなんだろう。 <p>アジサイグループ</p> <ul style="list-style-type: none"> •アジサイの育て方が分からないね。 •アジサイを植えるためには、種がいるよね。種って、どうやって準備したらいいんだろう。 | <ul style="list-style-type: none"> •共通の思いをもっている者同士で話し合いをすることで、友達同士で教え合ったり、相談し合ったりすることができるようにする。 •できるだけ児童主体で話し合いができるように、パンフレットや電話帳、花の図鑑等を準備しておく。 •話し合いが進まず、困っているグループには、教師がファシリテートをする。 •植え方や育て方等を調べたいという児童がいれば、前向きな声掛けを行う。 | <p>Jamboard グループトーク 【思①】</p> <ul style="list-style-type: none"> •地域のよりよい町づくりに関わる人々や組織を調べる活動について課題を設定し、解決方法や手順を考えている。 |

| | | |
|--|---|---|
| <p>4. シグソー法を使って話し合ったことを交流する。</p> <p>【Aグループ】 ☆ヒマワリA サルビアA アジサイA</p> <p>【Bグループ】 ☆ヒマワリB サルビアB アジサイB</p> <p>【Cグループ】 ☆ヒマワリC サルビアC アジサイC</p> | <p>Q それぞれのグループに分かれて話し合ったことを交流しましょう。</p> <p>(例)</p> <p><u>Aグループ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒマワリの種のまき方が分からないから、インターネットを使って調べてみたいという意見が出ていたよ。 ・サルビアの育て方が分からないから、花屋さんに電話して聞いてみたいという意見が出ていたよ。 ・アジサイの育て方が分からないから、世羅高原農場の人に聞いてみたいという意見が出ていたよ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・シグソー法で交流することで、自分たちのグループにはなかった調べ方に気付くことができるようにする。 |
| <p>5. 各グループに戻ってシグソー法で交流したことを伝え合う。</p> | <p>Q それぞれのグループで出た意見を交流しましょう。</p> <p>(例)</p> <p><u>ヒマワリグループ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・サルビアAグループは、育て方が分からないから、花屋さんに電話して聞いてみたいという意見が出ていたよ。 ・サルビアBグループは、植え方から分からないから、花屋さんに電話して聞いてみたいという意見が出ていたよ。 ・アジサイCグループは、植える時期が分からないから、世羅高原農場の人に聞いてみたいという意見が出ていたよ。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各グループに戻って伝え合うことで、自分たちのグループにはなかった調べ方に気付き、今後の活動に活かせるようにする。 |
| <p>6. 振り返りをする。</p> | <p>Q 振り返りをしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人たちを笑顔にするために自分たちにできることを考えることができました。 ・花を育てるための準備として調べ方を考えることができました。次は、考えた方法で実際に調べてみたいです。 | <ul style="list-style-type: none"> ・資質・能力の自己評価用ルーブリックと照らし合わせ自己評価を行わせる。 |

評価ツール

【資質・能力の自己評価用ルーブリック】

①自発せい


| 自発せい | A | B |
|--|---|--|
| 自ら 課題を見つ け、チャレ ンジする 力 | 地いきの人たちをえ顔にするというテーマにつながる活動について、友だちときょうかしながらよりよい方法を考え、話し合っている。 | 地いきの人たちをえ顔にするというテーマにつながる活動について、よりよい方法を考えている。 |
| 自ら 学習の進 捗の理を よくかん 理する 力 | 地いきの人たちをえ顔にするというゴールをイメージして学習計画を立て、友だちときょうかしながら活動しようとしている。 | 地いきの人たちをえ顔にするというゴールをイメージして活動しようとしている。 |

②そうぞうせい

| コミュニケーションのうか | A | B |
|---------------------------------|-------------------------------------|------------------------------------|
| つた える の う か | 相手の考えとくらべて、自分の考えに理由を付けて説明することができる。 | 自分の意見に理由をつけてせつ明することができる。 |
| 受 け 取 る の う か | 相手の考えを聞いて自分の考えをくらべてしつ問や感想を言うことができる。 | うなずいたり、反応したりしながら、相手の意見を聞きとることができる。 |

板書計画

せらを元気にしよう



今日の
ゴール

え顔いっぱい大作せんをせいこうさせるために、分からないことを出し合い、花を育てるじゅんぴをしよう。

学習テーマ え顔いっぱい大作せん

グループで
考える
15分

シェアリング
タイム
10分

話す
10分


5分

今日の
ポイント


話し合いのポイント

①地いきの人たちが本当にえ顔になるかな？

②自分たちでできる活動かな？



ループリック



ふりかえり

実践記録

小学校・第3学年

総合的な学習の時間

せらを元気にしよう ～笑顔いっぱい大作せん～

① 本質的な問い

世羅町をもっと元気にするためには？

② 単元を貫く問い

地域の人たちを笑顔いっぱいにするにはどうしたらいいだろう？

【課題設定】

地域の人達を笑顔いっぱいにするために、自分たちに何ができるだろう。

子どもの思い
や願いから
スタート！



育てた花を
プレゼントし
たい！

【情報収集】 【整理分析】

花の植え方や育て方について調べる。
情報をもとに必要なものを準備する。



【まとめ・表現】

自分たちの調べた方法で花を育てる。



【課題設定】 【情報収集】 【整理分析】

新たな課題を見つける。

失敗！



【まとめ・表現】 → 【課題設定】

地域の人達にプレゼント！



自分たちで育てたい花（ひまわり・ガーベラ・マリーゴールド・バラ・ラベンダー）の5つのグループに分かれて、どうやって花を育てたらよいか分からないことを出し合った。「自発性」を育成するため学習リーダーが司会をして授業を進めるようにした。

分からない花の植え方や育て方は、インターネットや図鑑で調べたり、先生方や電話でお店の方に尋ねたりして情報収集をした。事前に電話のかけ方を練習したり、家でも自分でお店に電話をかけたりして自主的に調べ学習をする姿が見られた。

友達のアドバイスでプランターではなく畑で育てた方がよいと知ったグループは、植え替えを行った。育てていく中で、虫の被害にあったり元気がなくなったりしていることに気付くと、家から肥料や防虫剤を持ってくるグループもあった。花を育てるために、どのようにしたらよく育つのかを協働的に探究する姿が見られるようになった。

世話をしていたが花が枯れてしまったグループもあり「育てた花をプレゼントしたい」というプロジェクトは失敗してしまった。失敗させないようにと支援するのではなく、あえて失敗させ、その原因を見つけ、改善過程を大切に教師がファシリテートしながら「自発性」「コミュニケーション能力」の資質を育成することが重要である。

花が枯れてプレゼントできなくなったため、笑顔いっぱい大作戦パート2として「地域の素敵いっぱいカルタ」を作成することにした。まず、カルタに載せる自分たちが住んでいる地域の素敵を出し合った。しかし、読み札に当てはめて作成すると、どのように書いたら良いか分からず、戸惑ってしまう児童が多かった。そこで地域のことをよく知っている自治センター長さんや、地域の方にアドバイスを頂きたいということになり、手紙を書いて依頼をすると、快く受け入れて下さった。完成させたカルタは、地域の方とカルタ大会を行った後、各自治センターにプレゼントする予定である。

② 児童生徒の考え

自分たちで育てた花をプレゼントしたら元気になる。

① 指導者の考え

地域の人を笑顔にするために自分たちで考えた物をプレゼントしたら元気になる。

【成果】

- 以前は、教師主導の一斉授業でみんなが同じ学習活動をする授業を行っていたが、子どもの思いや、やりたいことをベースに授業を展開する探究的な学習を進めてきたことで、児童が課題を自分事として捉え、一生懸命に課題解決をする姿が見られるようになった。また、授業中だけでなく、休憩時間も活動したり家庭でも調べて来たりするなど、主体的に学ぶ姿が見られた。
- 課題解決に向けて、自分の考えを持ち、友達とコミュニケーションを取りながら活動し、協働的に探究する姿がたくさん見られ、他教科においても協働的に学習するようになり、学びの広がりが見られた。
- 「信頼して、任せて、待って、支える」という甲山中学校区の合言葉を基に、児童の学習を見守った様々な学習の進度に対応したりするなど、教師のファシリテート力が向上してきた。

【今後の課題】

- 児童の「困った」を机間指導で把握し、必要に応じて立ち止まって考えさせたり本質的な問いにもどって目的を再確認したりするなど、更にファシリテート力を向上させ、より主体的で深い学びが実現するよう、指導力を高める必要がある。
- ルーブリック評価を活用した自己評価と実際の児童の姿とにズレを感じる時もあった。発達段階や学習内容等に応じて、A評価・B評価だけでなく、振り返りの視点を与えて記述をさせることで個々の変容を把握し、指導に生かす「指導と評価の一体化」を行う必要がある。また、形成的評価、総括的評価等、多様な評価方法と評価するタイミングについて見直していく。